

1. 背景

- 現体育館は、1964年に完成し、以来半世紀以上、夏の風物詩にもなっている大相撲名古屋場所の開催などを通して、県民に親しまれている施設である。
- しかしながら、施設の老朽化とともに、施設・規模とも国際水準を満たしていない。
- このため、2026年アジア競技大会に利用できるよう、新体育館の整備に向けた準備を進めることとした。

2. 事業計画地



- 所在地
名城公園北園の一部
(名古屋市北区名城一丁目地内)
- 面積 約 4.6 ha
- 管理者 名古屋市
- 土地所有者 国(東海財務局)
- 区域区分 市街化区域
- 用途地域 第二種住居地域
- 建ぺい率 60%
- 容積率 200%
- その他
31m高度地区、第一種風致地区など

3. 事業方式

PFI手法「BTコンセッション方式」

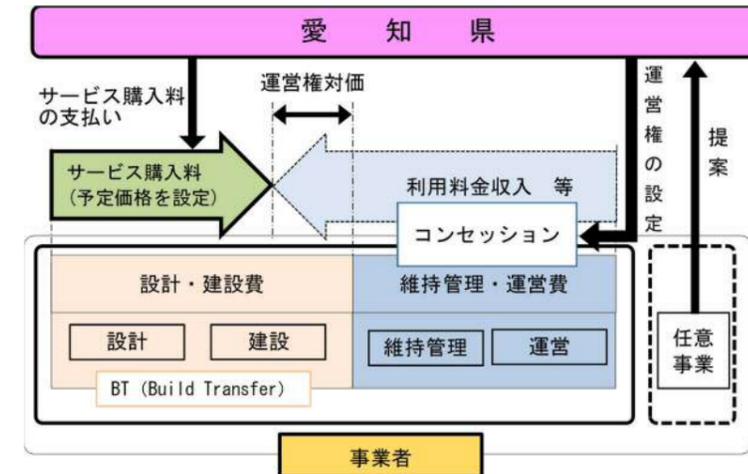
- 設計・建設 (BT方式)
事業者が自らの提案をもとに新体育館の設計・建設を行ったあと、県に新体育館の所有権を移転する方式 (Build Transfer) により実施
- 維持管理・運営 (コンセッション方式)
事業者が多様な利用者に対してホスピタリティの向上に資するサービスの提供を行えるよう、県が事業者に対して、PFI法第2条第6項に定める公共施設等運営権方式により、新体育館の公共施設等運営権を設定し、運営権に基づき事業者が実施

4. 事業期間

- 設計・建設期間 2021年6月～2025年3月
- 維持管理・運営期間 2025年4月～2055年3月

5. 事業手法

設計・建設費とその後30年の維持管理・運営費を加えた額から、利用料金収入等を差し引いた額であるサービス購入料がいくらになるか提案を受ける。



6. 事業者選定スケジュール

- | | | |
|-------|--------------|---------------------------------------|
| 2019年 | 6月1日 | 基本計画(概要)の公表 |
| | 12月26日 | 第1回選定委員会(事業の進め方に関する検討) |
| 2020年 | 1月31日 | 基本的な考え方の公表 |
| | 4月21日 | |
| | ～23日 | 第2回選定委員会(実施方針に関する検討) |
| | 5月26日 | 第3回選定委員会
(実施方針に関する検討、要求水準に関する検討) |
| | 6月2日 | 条例、事業予算(債務負担200億円)を議会上程することを発表 |
| | 7月7日 | 実施方針の公表 |
| | 7月1日 | 第4回選定委員会
(実施方針に関する検討、選定基準に関する検討) |
| | 7月30日 | 第5回選定委員会(特定事業に関する検討) |
| | 8月6日 | 特定事業の選定及び公表 |
| | 8月7日 | 入札公告、入札説明書等の公表 |
| | 10月1日 | 参加表明書の受付 |
| | 10月13日 | |
| | ～22日 | 個別対話の実施 |
| | 12月8日 | 第6回選定委員会(提案審査の手順に関する検討) |
| | 12月18日 | 入札及び開札、事業提案書の受付 |
| 2021年 | 2月1日 | 第7回選定委員会(基礎審査結果の報告) |
| | 2月9日 | 第8回選定委員会 応募者によるプレゼンテーション |
| | 2月16日 | 第9回選定委員会 最優秀提案者の決定、審査報告 |
| | 2月17日 | 落札者を決定 |

愛知県新体育館整備・運営等事業（事業者の選定について）

1 事業者募集の結果について

PFI法に基づき、2020年8月7日に募集を開始し、12月18日までに3件の応募があった。選定委員会の審査を経て、2021年2月17日に以下のとおり落札者を決定した。

2 落札者

「Aichi Smart Arena グループ」

代表企業：前田建設工業株式会社（設計・建設期間）
株式会社NTTドコモ（維持管理・運営期間）

構成企業：Anschutz Sports Holdings
三井住友ファイナンス&リース株式会社
東急株式会社
中部日本放送株式会社
株式会社日本政策投資銀行
クッシュマン・アンド・ウェイクフィールド株式会社

3 落札金額（税込） 19,999,100千円
（参考）設計・建設費相当額 40,000,000千円

4 提案の概要

◎ 実施体制、事業の継続性の確保

- 世界トップのアリーナ運営者と最大手移動通信企業、コンセッション事業の豊富な経験を有する企業等によるシナジーを最大化し、世界最高レベルのアリーナを実現
- 世界的な建築家とグローバルアリーナ設計の豊富な実績を有する設計事務所が連携し、歴史と風格のあるデザインによる世界最先端のアリーナを創造

◎ 施設計画

- メインアリーナ・サブアリーナ・多目的ホール等の利用用途の役割分担を明確にし、各々に最適な機能を整備。また、一体利用や個別利用に対応した配置・動線を実現
- メインアリーナには「ハイブリッドオーバル型（オーバル型+馬蹄型）」の観客席と30m以上の天井高さを確保。オーバル型が適した各種スポーツから馬蹄型が適した音楽イベント、広い競技面が必要なフィギュアスケートまで、質の高い観戦・鑑賞体験を提供するグローバル水準の施設となり、ワールドクラスのイベントの誘致が可能

◎ 施設デザイン・景観計画

- 世界に誇る名古屋城の城跡に広がる名城公園の自然と一体感を創出する「樹形アリーナ」

◎ 維持管理計画

- 最先維持管理システムを導入し、効率的かつ効果的に業務を遂行。また、維持管理に係るICT機器は計画的にアップデートすることで、常に最先端のスマートアリーナとし、顧客満足度の最大化を推進

◎ ホスピタリティサービス

- 世界最先端のスマートアリーナにふさわしい最新の観戦・鑑賞体験を国内最大相当数のビジョン映像によって演出。また、ICTを活用してアリーナ入場前から退場後まで常にワクワク感を醸成し、圧倒的なファンエクスペリエンスを提供
- 多様な利用者のニーズに適應したグローバルレベルのホスピタリティサービスを提供

◎ 催事

- 卓球・ダンス競技のアマチュアからプロまでの大会等を積極的に誘致し、聖地化を推進。卓球・ダンス競技の全国的な活性化に寄与、本アリーナの認知度やブランドを大きく向上
- スポーツと文化双方のイベントに対してグローバルなセールス・プロモーションを実施し、国内外から広く集客が期待できる催事を計画
- 県及び関係者と官民連携組織を組成し、地域施設（アリーナ・スタジアム・ホール・展示場等）の最適な機能分担と催事計画を策定。共同プロモーション活動を実施

◎ 建築概要

建築面積	26,700 m ²	構造	鉄筋コンクリート造 鉄骨造
延床面積	58,400 m ²	階数	地上5階建
最高高さ (メインアリーナ天井高)	41.0m (30.0m)	最大収容人数	17,000人 (立見含む)

◎ 座席計画（一例）

大相撲	11,000席
バスケットボール	15,000席
フィギュアスケート	14,100席

5 今後のスケジュール

2021年3月頃 基本協定の締結
2021年6月頃 特定事業契約の締結
2025年夏 新体育館オープン

<参考>全体スケジュール

年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
項目			◎18回アジア競技大会		▼契約	◎19回アジア競技大会				
整備		調査検討	基本計画	要求水準	事業者選定	契約	設計・建設			第20回アジア競技大会 (愛知・名古屋)
運営			◎基本計画公表	◎実施方針公表		運営に向けての各種調整・運用			運営開始	